

視察研修報告書

1 委員会名	総務企画常任委員会
2 実施名称（テーマ）	総務企画常任委員会県外視察研修 防災用品・研修事業の実情について ときがわ町の自主防災組織の実情について
3 実施期日	平成 30 年 10 月 1 日(月)～2 日(火)
4 実施場所	東京都中央区 船山株式会社東京本社 東京都品川区 しながわ防災体験館 東京都中央区 ぐんまちゃん家 埼玉県ときがわ町 ときがわ町役場
5 実施目的	防災用品・研修事業の実情について （1） 船山株式会社の行う事業について （2） しながわ防災体験館の事業について ときがわ町の自主防災組織の実情について （1） 組織率 100%までの経過 （2） 運営上の問題点について
6 参加者の氏名	委員長 関 常明 副委員長 篠原一美 委員 関 美香、齋藤祐知、大橋修次、山本隆雄
7 その他	

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
関 常明
2 視察研修の実施名称（テーマ）
中之条町の防災全般について 埼玉県ときがわ町の自主防災組織(発足と現状)と船山株式会社、防災@避難用品の取り扱い会社の見学と意見交換、しながわ防災体験館における体験
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
<p>中之条町の地域防災計画は平成 27 年に改訂版が配布されている。全国的に発生が続いている大地震さらには雨による河川の氾濫、大規模崩落事故等近年どこで何が起こっても不思議ではない状況が続いている。</p> <p>中之条町でも平成 26 年の雪害では道路を中心に農業施設など多くの被害が出たのは記憶に新しいところである。</p> <p>防災については、町と町民の間の行動の決め事を作る、さらにできる準備は積極的にしていくのが原則である。町の方針として共助の体制を確立して地域住民間の協力体制を作っていく方針であるが高齢化の深度化、地域での人間関係がかつてのように親密でなくなっている現状はきちんと見ていく必要がある。以前から指摘をしているがマニュアル的な指針作り、町で掛け声だけでなく地区に合わせたリーダーシップを発揮していく必要性を感じていた。その中に議会も参加をしていくのは当然である。</p> <p>今回の視察の一番の目的は、関東エリアでもありそうで無い全戸参加の自主防災体制を確立し継続をしている埼玉県ときがわ町との意見交換である。たまたま消防団出身の町長が背景にあったと聞くが住民の意識も高かったと思う。中之条町でも自主防災については区長会で、話がされている。しかしなかなか全体化できないのも現実である。当初ときがわ町では地域に対して自主防災組織設立依頼と合わせ自主防災組織補助金の設定がされたが、そのことによって活動の範囲が広がり住民参加の課題が浮き彫りになったようである。地域の組織が形になって初めて行政の役割と地域の役割が明確になるのは当然である。そののちに地域が主体となり継続、運営の形ができることが良い方向だ。防災用品を扱う会社(株式会社船山)も訪問して普段では気が付かないようなものまで見学し意見交換ができた。いざ災害時の生活の中での必要なものは実際のものを見るのも大切だと感じた。</p> <p>町内の被災だけでなく防災協定締結区、市なども考えていく必要性も合わせ考えられた。</p>
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
防災に対しては待ったなしの状況であり議会としても最優先の課題の一つだと考える。町にあった準備を積極的に進めていく。

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	篠原 一美
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	<p>避難所等の防災用品について</p> <p>しながわ防災体験館の施設見学</p> <p>ぐんまちゃん家の移転後の現状について</p> <p>ときがわ町の自主防災組織について</p>
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>1. 避難所等の防災用品について（船山株式会社）</p> <p>船山株式会社PRビデオにて避難所等の防災用品について説明を受ける。</p> <p>避難所等における防災用品については、高価なものが多く、各自治体で準備するには限度があると痛感した。国・県・町又は吾妻広域消防などの関係省庁で避難所等における防災用品の調達調整が必要と思われる。</p> <p>2. しながわ防災体験館の施設見学</p> <p>初期消火及び高齢者車椅子による高齢者の移動（救助）を体験</p> <p>ビデオによる防災について研修</p> <p>3. ぐんまちゃん家の移転後の現状について</p> <p>宮崎所長と面談・意見交換</p> <p>観光地等町の良さをメディアを通じて積極的に行うことが交流人口の増加につながる。</p> <p>行政と観光協会の意思の疎通が重要であり、共通した目標により活動することが大切である。</p> <p>町では、観光協会を支援している。町と観光協会が共通認識のもとに活動しているか疑問を感じた。</p> <p>4. ときがわ町の自主防災組織について</p> <p>人口11,000人 山林 70% 4,700世帯 高低差800m 土砂災害警戒区域258箇所 うち特別警戒区域223か所 行政区53</p> <p>平成22年6月自主防災組織補助金交付要領制定し、広報により組織の結成を促し、研修会を開催 住民参加の基盤を構築し、自助・共助唱える 平成24年45組織（100%）</p> <p>自主防災訓練100%を目指している。</p> <p>防災計画は、100%ではないとのこと。しかし、防災組織の結成により防災計画が必要となるものと思われる。中之条町では防災計画を推進している。この防災計画には防災組織を意識して作成する必要性を感じた。</p>
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	中之条町議会議員 関 美香
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	総務企画常任委員会 視察研修 埼玉県ときがわ町 自主防災組織について
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<ul style="list-style-type: none">・ときがわ町の自主防災組織設置率 100% に対して、中之条町は25%と低い状況。・ときがわ町では「自主防災組織補助金制度」があり、 毎年 世帯×800円 の補助金が支給される。 また広報誌に「自主防災組織」の設立のお願いを掲載し、 さらに、近隣市の自主防災組織の方を招き「自主防災組織の結成と活動」の講演を開催。・大規模な災害が発生した時「自分たちの町は自分たちで守る」との「共助」の精神が とても重要である。・中之条町において自主防災組織設置が進むよう、ときがわ町が行っている 「自主防災組織補助金制度」 「近隣市の自主防災組織の方による講演」 等の検討を望む。
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	齋藤祐知
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	総務企画常任委員会県外視察研修 ① 船山株式会社東京本社 ② しながわ防災体験館 ③ ぐんまちゃん家 ④ ときがわ町役場
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	① 船山株式会社東京本社 安全と安心を届ける企業をめざし次のような事業を行っている。 防災部門では・・・次々と発生地震、水害、竜巻などの自然災害に備え、防災避難用具を取り扱っており、その他消防部門、環境部門、繊維製品部門等数多くの商品を設計、開発しており一般家庭向けの商品から企業、官庁向けの商品及び非常食、防災システムまで幅広く販売している。当町でも利用出来る物があるのではと考える。 ② しながわ防災体験館 災害から生き延びることを目的とした体験館である。初期消火体験、用配慮者避難誘導体験、避難姿勢体験、応急救護体験等、議員 6 名全員で体験をし、いざという時に役立つ貴重な体験だったと思う。 ③ ぐんまちゃん家 平成 30 年 6 月 12 日に銀座 5 丁目から 7 丁目へ移転し、リニューアルオープンした。また 7 月 25 日には新たに群馬県産にこだわった絶品料理のレストラン「銀座つる」がオープンし、新しくなった「ぐんまちゃん家」広々とし、非常に親しみやすく入りやすくなったと感じた。看板等をもう少し目立つ様にしてはと話した所、早急に実施するとの事でした。 ④ ときがわ町役場 人口 11,780 名、当町と然程変わらない町である。自主防災について学んだ。 ときがわ町内の土砂災害警戒区域は 258 箇所、うち土砂災害特別警戒区域レットゾーンは 223 箇所と非常に多い。
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
	今回の視察研修のテーマとして防災、減災について学んだ。 最後に、私の考えだが、今後女性の活躍の場として、女性消防士の育成が必要と思う。 約 16 万人いる消防士のうち、女性は 2.7%にとどまっており、警察官 9.4%、自衛官 6.5%に比べ低い現状にある。 女性の急病人対応など、女性消防士の果たす役割は大きいと思うので、女性消防士の増加に向け取り組むべきと考える。

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
総務企画常任委員会委員 大橋修次
2 視察研修の実施名称（テーマ）
防災に対する知識の研鑽を図るため、舟山株式会社本社、しながわ防災体験館、埼玉県ときがわ町を訪問し、防災の避難用品、体験、地域防災について、学ぶ研修
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
<p>舟山株式会社本社に於いては消防に対する機材・用品・設備・保守・被服・装備品・防災機材・非常食・消防団員の救助訓練等を手がけている会社で、当町に於いても非常食をこちらから仕入れているとのこと、又8月10日の群馬県防災ヘリの墜落事故で亡くなった隊員もこちらで救助訓練に参加していたとのこと。防災の奥の深さを実感させられました。</p> <p>しながわ防災体験館に於いては、消火器の使用体験、消火栓の使用体験、車いすを使っての移動体験、実際に消火することにより有事の時に慌てずに消火活動ができる自信が少し身についた体験であった。</p> <p>ときがわ町役場に於いては、自主防災組織の設置が町内45組織の内平成21年度は1組織が立ち上がり、平成22年度は18組織、平成23年度は44組織そして平成24年度には全ての組織に自主防災設置が完了したといます。設置から4年間で地域100%を達成したのには驚きました。各地域年1回以上の消防署との訓練、避難訓練、炊き出し訓練等を行っており防災に対する意識の高さを感じました。</p> <p>町でも自主防災組織補助金の活用に年300万円の予算を用意し、炊き出し訓練、資機材の購入、啓発品の配布等に補助している。</p> <p>ときがわ町は埼玉県の中央に位置しているが、人口は12000人弱、周りを山林に囲まれていて町の7割が山林であり、面積こそ違えども地形は当町に類似している、平成25年5月5日に発生した弓立山山林火災に於いては、大附地区自主防災組織が消防機関や警察署、町と連携し、消火活動や住民避難を迅速に行い、被害軽減に貢献し、人的被害0、家屋被害0、焼失面積約7600平方メートルに食い止め県知事賞を受賞した。</p> <p>早くから自主防災組織を立ち上げ、訓練を続け、防災意識の向上に努めてきた結果だと思いました。</p>
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	山 本 隆 雄
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	<p>安心安全な町づくりの為に必要とされる意識、器具用具や施策と取り組みについて</p> <p>器具、用具については舟山株式会社、意識改革についてはしながわ防災体験館、施策については埼玉県ときがわ町自主防災組織</p>
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舟山株式会社は防災、災害、救助や避難に関する器具、用具を全て全国へ供給し、さらに救助訓練等は研修会を行い海外からも技術や指導者や器具を入れ、絶えず研究研鑽を重ねており、高度の防災体制づくりをして、全国から自治体から信頼を受けている。 <ul style="list-style-type: none"> 神戸や東日本大震災以降特に多くの地震、大雨による多くの災害などに、この会社の避難器具用具が供給されている。 救助訓練に吾妻広域消防からも受講している。受講者の中に県防災ヘリ墜落犠牲者もいる。 ・ 東日本大震災以降防災意識高揚を図る為のしながわ防災体験館を視察した。 <ul style="list-style-type: none"> 区の運営で設置して色々な体験をして区民が防災の為に役立てる。有事の際には最小限にくい止める初期消火体験、人命を最優先に障害者や高齢者の車いす移動体験などを実際に体験した。 ロープの安全な結び方等があり資料を頂いた。 この施設の運営経費は高額で相当な財政負担をしていると感じた。 ・ ぐんまちゃん家の移転状況について <ul style="list-style-type: none"> 今年の6月に移転をして県内産の食材にこだわるレストランをオープンした。賑わいは、朝早かったので少なく感じた。通り抜けの出来る店舗で品揃えも多く感じ、今後期待される。また宮崎所長との懇談で交流人口増やす為の都市での活動などを聞いた。そして所長が県内の市町村に交流人口対策に講演をされており当町も依頼をした、 ・ 埼玉県ときがわ町は、平成22年に自主防災組織を設置して平成25年に大きな山林火災が発生し、自主防災組織が当時45団体あり、その団体が警察、消防、町と連携を取り、いち早く消火活動や避難態勢をとり、被災を最小限にくい止めて知事賞を受賞した。町でも300万円の予算で年1回避難訓練や炊き出し訓練を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> 当町も地域防災計画の作成を呼びかけているが参加行政区が少なく苦慮している。地域防災機構図などを作成して指導し、区の全体行事に併せて訓練を実施した行政区に奨励措置を講じ高齢化した時代の防災対策が必要と感じた。
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）